

都 鳥



初 版

2007 年 5 月版

題字「都鳥」は伊藤幸子の筆

いざこととはむ
---「都鳥」からのメッセージ---

皆さんこんにちは。

私の名は都鳥、そう、あの音に聞こえた日本一の好い男、在原業平が、

名にし負はばいざこととはむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

という歌を詠んで有名にしてくれた、あの都鳥です。

高校を卒業して50有余年、同期会で集まるごとに懐かしくなりまさるよき時代の思い出、人生の夕映えに近づいた私たちにとって今一番大切なのは、共に過ごした日々の光景のなかに浮かぶ親しい友のあの顔、この顔、そして、心温まるその消息ではないでしょうか。

関東二七会では、毎年の同期会に一刷毛の彩りを添えるため、皆さんの近況を伝えるお便りを集めて配布することを考えつきました。そしてその役目を仰せつかったのが、この私、都鳥なのです。

私はメンバーの間を飛びめぐり、そのお便りを持ち帰って、ささやかな会報のかたちで御出席の皆さんにお配りします。私はつまり、関東二七会のメッセンジャーなのです。

皆さんは、この都鳥がお願いに伺ったら、最近の身のニュース、楽しかった経験、困ったこと、自分でも笑ってしまうような滑稽な失敗（近頃はそんなことが多くなってきたような）など、暮らしのなかでの面白おかしい話題を、500字程度を目安にお書き下さって、このメッセンジャーにお託し下さい。

それでは、「隗より始めよ」で、まず世話役の方々から書き出して頂き、それからどなたかにバトンタッチして、次々に輪を広げて行きましょう。皆さんの活発なご協力を期待しております。

（四高関東二七会会長、伊藤幸子記）

安藤 雍子

名古屋市長区鳴子町 5-17

朝のウォーキング

暖くなったらそろそろ朝のウォーキングを再開しようかなと思っている今日この頃です。草、木、花、鳥、ときにはタヌキまで、歩いていると色々なものとの出会いがあり、四季の移り変わりを感じることができます。

近くの池で毎年みられるカワセミが姿をみせなくなって寂しく思っていました。ここ二、三年ヨシゴイがくるようになりました。ギョギョシ、ギョギョシとさげびたて縄張り宣言をしているオオヨシキリが占領するヨシ原の片隅に現れるようになったのです。お目当ての鳥を収めようと望遠レンズをつけたカメラマンも早朝から押しかけるようになりました。ことしもヨシゴイが来る日が待ち遠しく思われます。

この季節、花もつぎつぎと咲きだし楽しみなものです。三年前には、植えられて間もないのか、ちらほらとしか咲かなかったシデコブシが今年は一面に花をつけて見事でした。

自然の変化は日々驚きであり、生きている喜びを感じることができます。このよろこびをもちつづけるために好奇心を失わず、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

伊藤 幸子

東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

花火と梅干し

関東二七会のお世話をするようになって、今年で3年目です。ただただ皆さんの顔をみるのが嬉しくて、不束ながら、楽しくやらせて頂いています。

昨年、神奈川県川崎市から、東京江戸川区に転居しました。マンションの10階で、こんな高所に住んだのは初めてです。建物全体はかなりの大きさですが、私の居住空間は、仕事柄蔵書が多いので本に占領されてしまい、小さくなって暮らしています。でも都心に近いので、買い物はもちろん、美術館や劇場に出かけるにも至極便利で、ともすれば、高みの巣から抜け出して遊び歩いてしまいます。

江戸川区の名が示すように、江戸川を始め、荒川、隅田川にも程近いので、夏には花火の競演でそれは賑やかです。大晦日には、ドカドカドカーンと除夜の鐘ならぬ除夜の花火が上がって、華々しく新年の幕を開けてくれました。

ところで、去年の秋、江戸川区から梅干を一箱もらいました。毎年秋になると、高齢者に梅干をくれるのが習わしいです。私は有り難く頂戴しましたが、心のなかでそっとうい言いました。「フン、江戸っ子なら、もう少し気の利いた、粋なシャレを聞かせてほしいわね。」

ところで、去年の秋、江戸川区から梅干を一箱もらいました。毎年秋になると、高齢者に梅干をくれるのが習わしいです。私は有り難く頂戴しましたが、心のなかでそっとうい言いました。「フン、江戸っ子なら、もう少し気の利いた、粋なシャレを聞かせてほしいわね。」

川崎 章弘

浦安市入船 6-6-803

死生観

ー死ぬまで生きる達観ー

今日という日は残された日々の最初の一日ということで、日々新に過ごしております。

「過去を追うな。未来を願うな。過去は捨てられた。未来は未だやって来ない。だから、現在の事柄を、それがあるところを

観察し、揺らぐことなく、動ずることもなく、よく見極めて行動せよ。ただ今日なすべきことを、熱心になせ。誰か明日の死のあることを知らん。」中部經典 131「一夜賢者経」

ヘーゲル流に「宗教それ自体が真理ではなく、その宗教を信仰する人々の特定の歴史的ニーズから生まれるイデオロギー」という側面から宗教を社会学・経済学・歴史から取り組んでおります。新しく知ることが多く、今日なすべき（読むべき）こと多く、がなかなか至りません。死ぬまでゆっくりやっていこうと思っております。

木村 栄子

寝屋川市国松町 14-1-525

老後を健康で楽しく

私は大阪府下に在住し関西二七会のメンバーなのですが、関東二七会のお仲間にも入れていただきありがとうございます。

「都鳥」のご発案は、なかなかのご名案と感じ入りました。この度、会長の伊藤幸子様より投稿のご依頼を受け、私めがと思いつつ、もうこの歳になると恥も外聞もおかまいなし、自分の近況でもと筆をとりました。

息子3人は各々家庭を持って親の出る幕もなく、主人と2人夫々が気ままに暮らしています。私は茶道と華道を30年来続けております。修行はまだまだ足りないのですが、何人かの方が家にお稽古に来て下さって、私自身が勉強させてもらっています。刺激をいただいて、とても楽しいです。それと女性コーラスのグ

ループに入っています。これも25年ほど続けておりますが、最近は声楽も習って、発表会には舞台上で独唱をすることもあります。うたうことは健康に良い、私にとっては運動の代わりなのです。もう一つ、地域の老人クラブの女性リーダーをやっていますが、これもなかなか楽しいのです。中心になる何人かが集まって活動を企画、実行します。今年度は家に眠っている材料を使った手作り品によるバザーを開いて、その収益金で昼食会をしました。私はこの様なことをして人との和を楽しみ、頭の活性化につとめ、私なりに前向きに生きております。

小島 紀子

小平市鈴木町 2-865

雪と花

この冬、東京には雪がありません。

何年か前の、四月の大雪で近くの公園の桜が被害を受けたことがありました。人の手で折ることは、許されませんが、落ちた枝ならよいとのことで、抱えられるだけいただいて、その年の我が家は、桜の園になりました。

若い頃には、桜には何の感慨も興味も持てないでいましたのに、自分の心が輝きをなくすころから、古くから日本人が桜にみた情感、数々の先人達の花へ寄せる言葉が雪融けのようにしみこんできました。

「花の下にて、春死なむ」世の無常に生きた僧衣の人の清冽さ、「桜の木の下には屍体が埋まっている。」と記した夭折の作家。

来年も、また花にあえるかな？などと

数年前から、折々にふとよぎる寂しさも、しばらくは封印して、とりあえず一年二年と... 春を重ねていきたいと考えます。

春の嵐の一日に、よしなしごとを連ねました。お目の穢れはご容赦ください。

私事ながら、今日はマイ・バースデー。
2007. 3. 10

後藤 隆三

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

毎日ピアノを弾いています

ピアノを習い始めて5年近くになります。若いときからピアノ曲を聴くのが好きで、弾けたらいいな、との気持ちが心の隅にありました。定年で仕事を離れ、時間ができたのを機に奮起して、68歳から習い始めました。ところが私はト音記号の高音部は少し分かりましたが、ヘ音記号の低音部はまったく分かりませんでした。

最初のレッスン曲は私の希望で「ある愛の詩」に決まりました。楽譜にドレミをふって猛練習した結果、3ヶ月でどうにか弾けるようになりました。

この後、先生が主催するリトルコンサートで毎年演奏することになり、これまでに好きな曲ばかり「枯葉」、「ゴッドファザー愛のテーマ」、「ラ・クンパルシータ」、「セントルイスブルース」などを弾きました。今年は「The Shadow of Your Smile (いそしぎ)」を予定して一生懸命に練習しています。

頭も手も硬くなっていますが、練習すれば何とかできます。最近、先生から「後藤さん、楽譜にかなをふらなくなりましたね」と言われています。ピアノを弾いていると、認知症予防の効果があるのでは

ないかと思って続けています。

田中玲子

四日市市笹川 6-26-4

私と太極拳

早いもので、太極拳を教えるようになってもう30年になる。

論語の中に、「知之者不如好之者、好之者不如楽之者」という言葉がある。これを知る者は好む者にしかず、これを好む者は楽しむ者にしかず、太極拳の知識がいくらあってもそれを好む人にはかなわない、また、いくら好きでもそれを楽しんでいる人にはかなわないというものだ。楽しんで動いていると心が落ち着き、体も軟らかく軽くなり、稽古の後には本当に気持ちよく清々しい。おかしなもので、他の教室と比べて寒いのに出席率が良い。始める前に歩く。背筋を伸ばし、視線を真直ぐにして、頭のテッペンに糸をつけて天から引張られている気持ちで、かかとから着地してつま先で蹴り上げて歩く。転倒予防にもなり、前から見れば年相応の顔でも、後ろからみれば20歳は若々しく見えるし、実際若くなる。

また、「人老心不老」という言葉がある。人老いて心老いず。だれでも必ず年を取れば老いがくる。これを止めることはできない。しかし、心は年を取らないで若々しく保つことができる。自分の心の持ち方で人生が違ってくる。いつも心をこめて、天地に感謝、人に感謝、謙虚な心で、明るく澄んだ心で、一日一日を精いっぱい生きたい。

このように書いてくると、悟りを開いた神様、仏様のように思われる人もいるでしょうが、いやいや、3時間立ちっぱな

しのミーハー族、スマップファンの玲子さんです。

中島 昇

三重郡菰野町菰野 1444

藍綬褒章と前立腺ガン

5 年程前から P S A の検査を受けていた小生、2005 年の春に基準値の 4 を超えて 5.4 となり、精密検査を受けるよう指示があった。初夏に前立腺初期のガンが見つかった。その年、治療方針の決まらぬままに秋を迎えた。嬉しい知らせが届いた。2 5 年間努めた裁判所の調停委員の功による“藍綬褒章”を授章した。最高裁での授賞式のあと皇居で天皇の拝謁である。私の右前方 7 メートル位の所に同学年の天皇が立っている。前立腺ガンの手術を数年前に受けられた先輩である。ガンの告知を受けた時“うんー”と考え込んでしまう。腫瘍マーカの測定値が高いのであるから覚悟していても、納得するまでの間がいやな思いをした。授章は私にとって気持ちを和ませてくれた。2006 年愛知県ガンセンターに入院、放射線治療を受けた。自覚症状もなく元気になっていたのがガンに対する驚きは大きかったが、今は頻尿の症状が減っている。

人間の体の細胞分裂が異常な状態になる、それがガンである。加齢はその異常分裂の一因となる。入院中の見聞は、ガンの移転、再発により、抗ガン剤の投与を受けている患者の様子を見ていると、如何に早期に発見するか、現在の医療はほとんどのガンが早期に治療すれば押さえがきく、是非是非、定期的に検査を受けて下さい。

2008 年の四高二七会でお会いできることを楽しみにしています。“お元気に”。

次回の幹事より。

西脇 基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

一歩、二歩、散歩

家の近くに遊行寺があります。一遍上人を開祖とする時宗の総本山で、1329 年に建立という古い寺である。遊行寺は私の散歩コースにあるので前を通ると必ずお参りをすることにしています。家内安全を祈願してから本堂の裏手にまわり、銭洗い弁天で小銭を洗うのだが、金運、財運には一向に恵まれない。

境内に板割浅太郎の墓がある。板割浅太郎は国定忠治の子分です。寺と侠客という不思議な組み合わせに興味をもって、隣に立つ看板を読むと、

「赤城の山は今宵かぎり……」、浅太郎が忠治親分と別れる名場面です。浅太郎は親分に忠義立てをして自分の叔父の中島勘助とその息子貫太郎を殺します。二人は分かれて逃げますが、国定忠治は八年後に捕まって死刑になります。この辺までは皆さんよくご存知のお話である。一方の浅太郎は遊行寺で堂守となり、鐘つき、参詣者の接待、掃除などの雑用をして中島親子の菩提を弔います。その精進、改心が認められて、後ほど僧侶になります。明治 13 年（1880）に遊行寺が火災になった際、勧進僧となり全国を行脚して寺を再建しました。明治 26 年 74 歳でなくなつたとあります。

今から 120 年ほど前の実在の人物であることを、私ははじめて知った。散歩で得た余禄である。

長谷川 卓

東京都板橋区中台 3-27-G501

高所恐怖症の高層住宅

人には誰知れず苦手なものがあるようです。

私の場合は高所での異常な精神的不安感と地震の揺れに対する極度の緊張感で時によると病的状況になったりすることです。これは私には理屈を超越した難題のような気がします。そんな私が現在の住居に移ったのが1980年で、都内で最初の25階建ての高層住宅でした。矛盾のようですが、関東大震災級の大地震でも十分耐えられるよう耐震性を考慮したと言うキャッチフレーズにあっさり賛同してしまいました。然し、考えてみると、地震の横揺れへの対応は兎も角、直下型の複雑な揺れに対しては考慮されている筈がないと改めて危惧を抱くようになりました。

要するに、起きてみなければ判らないと言うことです。さて、私の居所ですが、勿論高所は駄目で5階で妥協しております。入居以来やがて27年になりますが、今の所大過無く時は過ぎております。長所もあります。それは入居時に植樹した5万本の木々が今や大変繁茂して恰も周囲は緑化公園のようになり鳥の囀りが楽しめ、樹木に映える四季の光景を眼に写すようになったことです。都会に住む者にとって掛け替えのないメリットだと思います。何れにしてもどうやらここが私の終の棲家となりそうです。

然し、私の病気は治る気配はありません。願わくは、関東27会の集いが展望レストランの様な所で開催されない事を祈っております。

藤田 弘幸

横浜市港南区港南台 4-5-13-103 号

充実した日常活動

身体に多少の不安はあるものの、日常の生活は多忙な充実した毎日を過して居ります。

居住地区のシルバークラブの役員を任せられ、スポーツは毎週午前中2回グラウンドゴルフの練習に参加、カラオケにも時々顔を出し、会報も毎月発行し、地域活動の貢献には、週1回の周辺横断歩道橋清掃作業と忙しい。

他の地区との交流には、毎月の定例会、月2回の麻雀会等親睦を深め、年4～5回の日帰りバスツアー、2回の一泊旅行会等がある。

港南台に住んで30年。住宅管理組合修繕委員会委員として、来年は30年目の大規模修繕を実施する為、今年から工事箇所の検討、管理会社の選定・工事実施会社の公募入札手続き等、月数回の打ち合わせ会がある。

予定の無い天気の良い日には、カメラをぶら下げ、季節の花や行事の写真を撮りにも出掛けています。

地元「横浜ベイスターズの友の会」に加入し、プロ野球の観戦や、Jリーグサッカーナイターの観戦にも出掛け楽しんでいます。

最近では「港南の歴史を学ぶ会」にも参加して、毎月一回講演会を受け、地元の過去の歴史についても興味深く勉強しています。

糖尿病の予備軍に入り、狭心症を抱えながら、注意してアルコールで英気を養い、思い残す事のないよう、本当に充実した多忙な毎日を送っています。

水谷 ひで

四日市市中川原 1-10-21

私の日々

70歳を過ぎて老いを感じるこの頃ですが、近くのスポーツジムがありますので足腰が弱らないように出来るだけ毎日水中ウォーキングに、時には水中ダンベル運動やアクアダンスにも参加しています。私の水着姿を想像していらっしゃる皆様のお顔が目に浮かびますが、60を過ぎたおじさんおばさんが多数いてあまり引け目を感じないで楽しくやっています。ただ運動するせいで快眠快食。残念ながら肥満解消は望めそうではありません。

もう一つの私。それは虎キチ。選手の写真入のカレンダーやポスターを部屋のあちこちに張り、シーズンになれば実況放送を見ながら熱狂的な応援を送り、試合後は卒業生の虎キチとメールを交換して勝利の喜びを分かち合いその後のニュースでもう一度感動するという、他人からみたらバカみたいなことですがけっこう楽しいのです。今年の虎は不安もありますがダメ虎ももちろん可愛いですよ。

最後に、今、日本が世界に誇れる平和憲法を改悪しようとする流れの中で、それに呼応するかのように、国の都合のよい人づくりをするための教育改革、さらには戦時中の生めよ殖やせよを彷彿させる柳沢発言など気になる動きがあります。

戦争を経験した私達が大切な子孫を二度と戦場に送らないために、戦争の恐ろしさ残酷さ悲惨さを伝えていくことが大切だとしみじみ感じています。

横浜物語

日米和親条約と日米修好通称条約

嘉永6年(1854)に武蔵国横浜村(現在の神奈川県庁付近)で日米和親条約が締結されました。このあと、初代総領事ハリスの要求により、安政5年(1858)に日米修好通商条約が締結され、横浜と神戸に港が設けられました。これが横浜港の始まりです。来年は150周年になります。

ニューグランドホテル

この辺一帯は商社やホテルの建物がたくさんありましたが、大正12年の関東大震災で瓦礫の山となりました。山下公園は市内の瓦礫で海を埋め立ててつくられました。昭和年、ニューグランドホテルが建設されました。戦後、GHQに接収されマッカーサー元帥が宿泊しています。

汽笛一声、横浜ステーション

日本で初の鉄道が新橋から横浜まで開通したのは明治5年(1872)です。横浜停留場は現在の桜木町駅付近にありました。その後、港まで貨物線が延長され、その鉄道の廃線跡が現在「汽車道」と呼ぶ遊歩道になっています。

神奈川県庁本庁舎 - キングの塔

大正6年に建てた旧庁舎が関東大震災で崩壊したため、昭和3年に再建されました。「キングの塔」と呼ばれています。5階建て、高さは48.6mあります。

横浜税関 - クイーンズの塔

震災で税関庁舎も倒壊。時の大蔵大臣高橋是清の発言により建設がきまりまし

た。すでに建っていた神奈川県庁(高さ49m)よりも高くすべきだとして設計図を見直し、昭和9年に高さ51mの現在の横浜税関庁舎が完成しました。

横浜開港記念会館 - ジャックの塔

当時の貿易商たちが事務所や集会所のために造った町会所です。明治39年に火事で焼けて大正6年に再建しました。この建物は3つの塔の中で一番古く、関東大震災で倒れることなく残りました。内部は焼けましたが昭和2年に修復されました。大きなホールがあり戦前は音楽会や講演会など多くの催しが行われて市民文化に貢献しました。高さが36mあります。

みなとみらい21地区

この辺一帯は、三菱造船ドックを中心に商社の倉庫群がひしめきあっていました。船舶から航空機に時代が変わり、当時の設備がすべて取り払われ、新しい時代の未来都市を創る計画が生まれました。1989年、ここで「みなとみらい21」博覧会が開催されました。観覧車などはその時のものです。倉庫の一部が「赤レンガ倉庫」と称して残っています。

山手通り

横浜港に隣接する小高い丘に、港で働く外国人の居留地がありました。この山手通りには、イギリス領事館を始め、当時の外国人が住んでいた建物や墓地在史跡として残されています。大仏次郎の出世作「霧笛」に当時の様子が窺えます。

ようこそ 横浜へ

三塔マーク
ジャック・クイーン・キングの塔が
同時に見える地図



投稿のお願い

皆さんからの自由な投稿を歓迎します。日ごろの生活を中心に、思い出、将来の計画、なんでも結構です。500字前後を目安に、長くても600字を超えない範囲で投稿してください。仲間同士で投稿を促し、執筆者が増え、読んでくださる方が増え、だんだん輪が広がっていくことを期待します。遠くへ出かけることが億劫な人でも、これだといつでも参加できますから気楽に参加してください。

発行は年一度の同窓会、場合によっては、春秋の年二回程度を考えています。原稿は「表題」を付けて下記に提出してください。いつでも受け付けています。

(1) 伊藤幸子

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

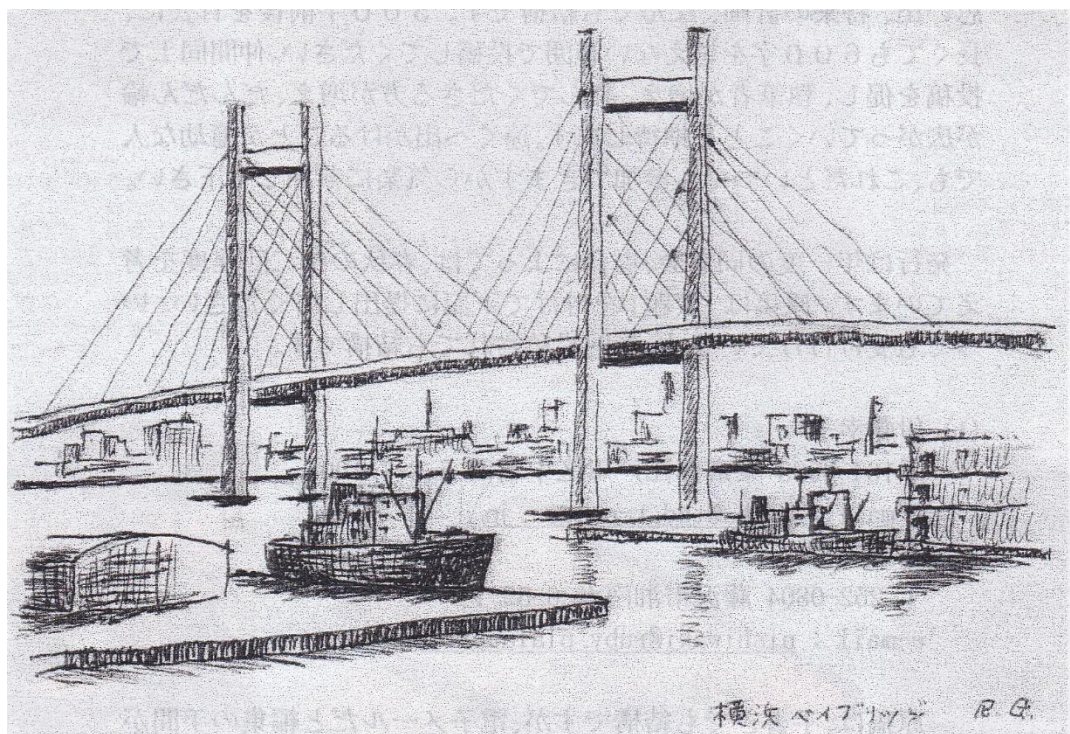
e-mail : itohs@tbd.t-com.ne.jp

(2) 西脇基夫

〒252-0804 藤沢市湘南台 6-55-1

e-mail : nishiwaki@ruby.plala.or.jp

原稿は、手書きでも結構ですが、電子メールだと編集の手間がかからなくて助かります。フォントの種類、大きさは問いません。自由なスタイルでお書きください。



後藤隆三氏画